

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### ＜大学＞

担当(記述)部局は、  ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教育学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 施設・設備の整備については、完成年度以降の教育学部再編計画に併せた整備計画を立案する。	→「将来ビジョン委員会の開催回数」	B	B	B	C	C
2. 教育研究支援体制については、TAの配置の具体案を策定する。	→「TAの制度について検討のための委員会開催頻度と進捗状況」	C	C	C	C	B
3. 研究倫理を遵守するために学内関連諸規程の周知徹底を図る。	→「教授会などを通して周知徹底の回数」	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大規模な施設・設備の整備計画立案事項はなかったが、心理検査用具を新規に購入した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 心理検査用具は心理学関係の授業で活用されたが、アクティブ・ラーニングをさらに活性化させるような設備面での検討が必要であることが分かった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か アクティブ・ラーニングを促進するような設備面での拡充の検討を行う。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか TAの配置に先だて、LAの配置に関する申し合わせ事項を学部長室会にて案を作成し、教授会にて了承された。また、教学補佐や実験実習指導補佐・教務補佐の人数を増やし、指導体制の強化をはかった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か LAが一律の基準に照らして多く配置されたことにより、アクティブ・ラーニング型の授業の促進や、授業効果の向上がみられた。また、教学補佐や実験実習指導補佐・教務補佐の人数が増えたことで、授業運営の効率化が図られたり、担当教員による指導効果が向上した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か アクティブ・ラーニングを促進するようなTAの配置基準の検討を行う。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 関西学院大学として設置している研究倫理基準について、教授会にて確認を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 年度初めに研究活動の倫理、試資料の取得・利用および研究成果発表に関する不正行為の禁止、研究費の適正な取り扱いについて、研究倫理基準の確認を行ったことで、問題発生防止に効果があった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も周知を徹底し、不正行為などを防止する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【教育学部】			単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	4	4	4	4	5	
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	5	6	7	7	8	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	8.1	12.5	14.0	15.4	15.6	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	8.5	11.5	15.4	13.3	14.4	
		講師	時間	6.0	—	16.0	15.0	16.0	
		助教	時間	—	—	—	—	—	